

平成16年3月7日

於・鴨川市役所7階会議室

第2回 鴨川沿岸 海岸づくり会議

議 事 録

(午前の部)

	目	次	ページ
1. 開	会	1
2. 会議の趣旨等について		1
3. 鴨川沿岸の環境、利用について(情報提供)		3
4. 意見交換		18
5. 休	会	28

1. 開 会

○総合司会（佐久間） 皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、「第2回沿岸海岸づくり会議」をただいまより始めさせていただきます。

私、進行役の鴨川市役所都市建設課の佐久間でございます。どうぞひとつよろしく願いいたします。

2. 会議の趣旨等について

○総合司会 まず初めに、本日の会議の進め方などについて御説明を申し上げます。

この会議の趣旨について、簡単に御説明をさせていただきます。

鴨川の沿岸では近年、砂浜の侵食や台風シーズンの越波による被害など、さまざまな問題が発生し、対応が求められております。今後、この地域の発展のために、きれいで、安全で、利用しやすい海岸として未来に残していく必要がございます。そこで、さまざまな立場の方から御意見をお伺いしながら、皆様とともにこの海岸をどのようにしていくべきかを考える場としてこの海岸づくり会議を開催しております。

第2回目の今回は、前回の会議の概要を御報告しつつ、本日までにご得られた情報を加えて、現在の鴨川の沿岸の状況について御紹介しながら、皆様とともに海岸について理解していきたいと考えております。

次に、この会議の参加者とその役割について御説明を申し上げます。

この会議では、より多くの地域住民の方々や海岸を利用されている方々から幅の広い御意見を伺う必要がございますので、市の広報への御案内のほか、海岸に関係の深いと思われる方々にも参加を呼びかけております。また、この会議は市役所が主催しておりますが、さまざまな課題を解決するために海岸の専門家としてさまざまな方に御協力をお願いしております。後ほど改めて御紹介をさせていただきたいと存じております。

さらに、皆様の御意見などを事業に反映していただけるように、県の行政機関の方々にもこの場に御参加をいただいております。

なお、会議の運営や資料づくり、技術的な検討などの専門的な内容についてはコンサルタントの皆様事務局をお願いしてございます。

最後になりますが、この会議のルールなどについて御説明を申し上げます。

まず、この会議ではいただいた御意見などを正しく理解するために議事録を作成いたします。つきましては、参考のために会議の様様を録音並びに録画させていただきたいと存じております。

また、先ほど御説明したように、この会議は広く皆様の御意見を聞き、さまざまな情報を共有化することが必要でございますので、基本的には公開とさせていただきます。

次に、御発言いただく際の注意事項を申し上げます。

まず会議の趣旨から、できるだけ多くの方々から平等に御意見を伺いたいと思いますので、御発言は1回につき1件程度としていただきたいと思います。

なお、進行役より発言の依頼等があった場合はこの限りではございません。

また、御発言を希望される方は挙手で意思表示をし、進行役による指名を受けてから御発言を願いたいと思います。その際は、「前原地区在住のだれだれです」というように、お名前などを申し出ていただければと思います。

さらに、個人や機関に対する誹謗中傷や本会の趣旨に無関係、または著しく反する御発言は御遠慮いただきたいと思います。

なお、これらに反し、議事進行の妨げになると認められた場合は、主催者の裁量により、それ以降の発言の制限、あるいは退場をお願いすることもありますので、御了承いただきたいと思います。

最後に、この部屋は大変狭いため、禁煙とさせていただきます。たばこを吸われる方は、申しわけございませんが、ロビーの喫煙所の方をお願いを申し上げます。

それでは、大変遅くなりましたが、本日お越しいただいた専門家の先生方を御紹介させていただきます。

まず、清野先生でございます。

○清野アトハイザ - (起立一礼)

○総合司会 清野先生は、東京大学大学院総合文化研究科の助手をされております。御専門は海岸河川保全学、沿岸環境学、生物形態学などですが、近年では、特に漁業者や地域住民、生物など、さまざまな立場から地域社会と公共事業の関わり方などについて研究されており、全国の住民会議や講演会に、文字通り東奔西走されております。

また千葉県においては、海岸保全基本計画の委員、三番瀬の専門家会議の委員などを御担当され、お隣の白渚海岸でもアドバイスをいただいております、今回も大変お忙しい中、御出席をお願いした次第でございます。

続きまして、宇多先生でございます。

○宇多審議役（起立一礼）

○総合司会 宇多先生は現在、財団法人土木研究センター審議役、なぎさ総合研究室の室長をされております。

昭和48年より約28年間、国土交通省国土技術政策総合研究所に勤務をされ、全国はもとより、世界中の海岸を歩き回り、海岸の調査・研究を行うとともに、海岸事業などの計画、立案にも関わってこられました。日本の海岸工学の第一人者でございます。

また、近年では合意形成会議や講演会などにも多数御出席をされ、よりよい海岸づくりを目指して、超多忙な活動をされ、千葉県においては白渚海岸や九十九里浜へのアドバイスをいただいております、今回も御出席をお願いした次第でございます。

大変長くなりましたが、以上で会議の趣旨説明を終わらせていただきます。

それでは、ここからは司会進行を事務局にお渡しいたしまして、休憩を取りつつ、午前中の部は正午ぐらいまで、午後からは1時半から4時過ぎまでを予定をさせていただきたいと思っております。

それでは、ひとつよろしく願いいたします。

3. 鴨川沿岸の環境、利用について（情報提供）

○清野アドバイザー - それでは、進行を替わらせていただきます。清野でございます。

きょうは休日の朝早い時間からお集まりいただき、どうもありがとうございます。午前の部、午後の部と長丁場でございますので、どうぞリラックスしてお話をしたり、聞いていただければというふうに思っております。

まず、午前の部では鴨川の海岸についていろいろな活動をされている方をお招きしまして、どんな活動をどんなふうな気持ちで、どういう経緯でやっていらっしゃるのかということをお紹介していただきます。浜で会っても違う活動をしている同士だと、なかなか声を掛け合うこともないかもしれません。しかし、こういう形で会っていただくと、また日常の情報交換にもなるかと思ひまして、お声をかけさせていただきました。

この件に関しては、鴨川市さんの方に随分と御尽力いただきまして、きょうお願いする3人の方に何とか出てくださいますということで御尽力いただきました。

それでは、時間が余りない中で、お3人の方にお話をお伺いします。それぞれ15分ぐらいの自分の活動紹介と、それから海岸についてのお話をいただきまして、3題続けてお話しいただいた後に、それをもとに会場の方とフリーディスカッションをしたいと思っています。

基本的には質問は後でまとめてということにしようと思っっているのですが、もしその場でどうしても聞きたいということがありましたら、「はい」というふうに手を挙げてください。

それでは、この3人の方にきょうはお願いしたいと思います。ほかにもいろいろ活動されておられる方はいらっしゃると思うのですが、今回はこの方々で、植物、それから漁業、それから海岸の利用のサーフィンということでお話をお願いしました。

それでは、まず「海岸の植物」ということで、相原聡子さんをお願いしたいと思います。
○相原（聡） こんにちは、相原です。ちょっと風邪を引いておりまして変な声ですが、お許してください。

私はもうかれこれ10年ぐらいになると思いますけれども、ウォーキングを始めて、毎日海岸を、私の自宅が駅前ですので、そこから鎌田病院のところまで歩きます。毎日歩いているうちに、海岸にごみがいっぱいあったり、そういうのが目につき始めて、拾い始めてはまってしましまして、今や我が庭と思って、海岸を毎日きれいにお掃除を続けています。

その中に、四季折々、年間365日のうち330日ぐらいは毎日歩きます。雨でも行きます。旅行と大雨、台風以外は毎日行きます。そして、そのうちの四季折々にこの汐入公園、その道中にかわいい花が咲いているのを見て、本当にこれがもっとももっといっぱい咲けばいいのに、ふえていけばいいのにと思うのですが、なぜか絶えていたりするのです。

この2番の紙の写真をごらんになっていただきまして、一番上のものはポピーです。これは自然のポピーで本当に小さな花なのですが、これがどこに咲いているかというと、皆さんほとんど気がつかないと思いますが、鴨川、今は未来高になりましたね。未来高の前の駐車場の端にかすかに咲くのです。こうして毎年咲いていたのですが、去年、大変大きな嵐が来まして、ユンボが入りましてそこが削られました。そして、ことしはもうきつと咲かないのではないかと思います。

その先に咲きますのがこのハマヒルガオでした。ハマヒルガオはずっと昔はもっと、もっと、もっといっぱい咲いていたと思いますが、今は本当に少なくなってきています。

その嵐の中で、この下の写真は大きな大木、何 10mにもなるような大木が流れ着きました。チェーンソーで切ってくださいとお願いしまして、それを毎日、2ヶ月余りかかって燃やし尽くしました。

そして、その下は、今朝ビデオを撮ってまいりましたから、後でごらんいただくとその場所がわかると思いますが、待崎川のそばのホームレスの住んでいるところの後ろの公園なのです。この公園が本当に大変きれいなダイコンノハナの花畑にこれから変わっていくわけです。

そしてきょうのビデオには入っておりませんが、こんなに満開だった花が、去年、花が咲いている最中に刈り取られたのです。この時期に刈り取ってしまうと、もう来年がないと本当に思いました。そしてここに、その場所はビデオにあります、ここにユリの花の種があるのですが、これは私のところの庭に咲く種です。これが鴨川の松林の中に非常に群生した時期があったのです。これは本当に真っ白くパーッと咲きました。そうしたら、その咲いている最中に伐採された、切られてしまったのです。これもやはり時期が早過ぎれば次の年に咲かないわけですね。

そして、またこれもビデオに入っておりますが、これが災いしています。この木は夏になると、多分1年間にこれから先ぐらいは伸びると思うのです。そしてどんどん、どんどん広がって行ってしまいうわけです。それで枝になって、大きなところは私の腕ぐらいの太さになって、とても抜けません。そして、それがどんどん広がっていくわけです。勢いがすごく強いのです。汐入公園がまるで林のようになってしまいました。ずっと私の観察によりますと、5～6年前まではあそこが秋になると刈り取られていたのです。ところが、それが刈り取られなくなりまして、ここ数年、刈り取られていません。だから、どんどん、どんどんススキの原となりました。3年前から私が火をつけて野焼きをするようになりました。本当は野焼きは禁止されているそうですが、やはりこのままではいけないと思ひまして野焼きをしました。そうしたら、そこにこういう木の枝、ブッシュが残りました。そして、その残ったものを、仕方がありませんから、きれいにするまでに、ことしの冬1ヶ月、まだやっている最中ですが、1ヶ月以上かかりまして汐入公園を整備し始めました。そして、今はきれいになったのをビデオでごらんいただきたいと思ひます。よろしく申し上げます。

○宇多審議役 それは何という名前なのですか。

○相原（聡） これがわからないのです。私にはわからないので、一応、品物を持ってくればわかっていたいただけるかなと思って持ってきたのですが、これがとても強いのです。もう強くて、強くて、毎日私の姿を見ていてくださる方がここにいらっしゃいますけれども、私は本当にはまってしまっておりまして、海岸とお話をして毎日楽しんでおります。

○宇多審議役 地下に潜っているのですか。

○相原（聡） 最初は地下に潜ってはいないのですよ。どンドン、どンドンツタのようにしていくのですが、だんだん、だんだん根を張って地下に入っていくってしてしまうのですね。

○清野アババ - 紫色の花が咲きますか。

○相原（聡） ええ、小さな紫のグミの葉っぱのような。

○清野アババ - 多分、ハマゴウというものだと思うのですが、「浜」の「香」と書いて、ちょっとお香みみたいな、ちょっと臭いというか、そういう臭いがするのではないですか。

○相原（聡） 夏はすごく葉が茂ってしまって、ものすごく茂るものですから、下の小さなツキミソウとか、小さなかわいい花がこれによって育たなくなってしまうのです。

○清水 昔はハマゴウは、東条の海岸にはいっぱい群生していました。

○相原（聡） そうですか。

○清水 もともとのものです。

○相原（聡） もともといるでしょうね。だけれども、ツキミソウもあったし……。

○清水 ツキミソウもありました。

○相原（聡） ハマヒルガオもあったし、だけれども、これが困るのは、枝として残ってしまうのです。

○清水 ある限られた地域、ずっと一面これでした。

○相原（聡） 広がるのですよ。だから、駆除しなければどンドン広がってしまうのですね。だから、東条海岸は全部これがあります。どこにもあります。

○清水 昔からありました。僕の小学校時代ですから、もう 50 年以上前からありました。

○相原（聡） そうです、そうです。今ももちろんありますね。ですから、広がる場所と広がらない場所とあるわけなのですね。

長くなりましたが、ビデオで今朝撮りました。今朝の鴨川海岸を見ていただければありがたいです。

〔ビデオ放映〕

夜明けです。すてきな太陽が上がります。

汐入公園です。汐入公園のここにダイコンノハナの咲く花園があります。

ここは東京中央青果株式会社の管理地です。去年早めに刈り取られてしまいましたが、ダイコンノハナはまだ元気に、ここに結構芽吹いてきています。

この脇にホームレスが住みついてしまっています。大変な発泡スチロールの山を築いていたりして、中でカラスが結構餌をあさっています。きょうはここに布団は干してありませんが、いつも布団を干したりします。とても困ります。

「私の花園」と言って撮った場所です。汐入公園です。しっかりこうしてきれいにしました。1ヶ月かかりました。

あと、取り除きたいブッシュの木がここに残っています。これはとても迷惑な木だと思っています。近づいてみるともう1mぐらいの木の林になってしまっています。

ここもやはり同じような状態でしたが、私が先月、2月いっぱいかかって取り除きましたら、こうしてもうすでにカラスノエンドウの芽が芽吹いてきています。

このフェンスの中もダイコンノハナがいっぱい咲きます。しかし、手前は南部林業が夏に刈りました。しかし、その後、ここに残っているススキは刈られなかった場所です。奥の方はずっと刈られていません。そこはもうこうしていっぱい繁茂してしまっていますので、ダイコンノハナが余りきれいに咲けないのではないかと思います。でも、手前はもうすでに芽吹きがいっぱいしています。

ここにはツワブキの葉っぱの群生が見られます。ツワブキの花は黄色くて、とてもかわいい花です。結構群生しています。松林の中です。

ここはノバラです。ノバラにこの災いの木がこうしてまぎって繁茂しています。そしてその向こうにカラスノエンドウがありますが、これもだんだんこの木の枝に侵されてきています。

汐入公園のそばの駐車場のそばです。ここはちょうど刈り取られる時期がよかったと思います。もうダイコンノハナがすでにこんなに育っています。刈り取られる時期がよければ、もう2月の後半からこんなによく咲きます。ずっと5月の末まで咲き続けます。しかし、この奥の方はちょっと刈られなかったので、ススキがいっぱい残ってしまっています。

駐車場のそばの水飲み場のごみ箱を、お願いしてここに設置してもらいました。蓋つきのごみ箱とお願いをしたら、この状態です。パンの籠です。観光地としてはちょっと

悲しいと思います。そして、ごみ箱は1つですので、分別できません。私はいつもここに、今ペットボトルが1つありますが、拾ってきた瓶や缶、ペットボトルなどはこの籠に入れずに横に置きます。

今のごみ箱は以前、旅館組合が設置したものです。そして、2個セットだったのですが、ここに1個、離れた場所に1年以上置かれていました。ごみ箱が分別された方がいいと思って、私はここにあったごみ箱を先ほどの蓋のついたごみ箱のところに運んで並べてみました。そうしたら、翌日にそのごみ箱はここにこうして倒されて置かれてしまいました。なぜだかわかりません。「どうしてですか」と高梨喜三郎議員に市の方に問い合わせてもらいました。そうしましたら、「考えておきます」ということだけで、答えは返ってきておりません。そして、もう半年以上たちますが、今もってごみ箱はここにこうして横になっております。でも、あそこに1つあるパンの蓋つきのごみ箱は、おかげさまで毎日に来てくださいますので、きれいになっております。

やっときれいになりました、この海岸。4日、5日と私はケルンを、石の山を積んでおきましたら、片づけていただきました。でも、ここはこうしてまだ渚に石が運ばれてくるのですね。ほっておけばどんどんこうして流れ着きます。工事現場の石です。

おかげさまで、今はとてもきれいになりました。

この土管は鴨川グランドホテルさんが夏に使う土管です。花火用のものだと思いますが、1年中、ここに置かれています。これはちょっとやめてほしいと思います。

ここに冬に芝生を放置しました。グランドホテルさんです。ちょっと困っています。

こうして工事の砂袋がまた放置されています。これもまたずっとここに置かれるのでしょうかね。余りよろしくないと思っています。

ここはかつてユリの花が群生していたところです。前にシーワールドホテル、そして壊された望洋荘の跡地がここにあります。とてもいっぱい咲いていたのですが、今、花殻もありません。もう絶えてしまったのでしょうかね。その草藪の中にこうして緑色の葉っぱのツルが見えます。これはツル状態なのですね。こういうふうにはツルがどんどん伸びていきます。夏になると紫色のすごくかわいい花が一面に咲いているのを見ました。これは自生するので、ススキがなければ本当にどんどん、どんどん生えて育ってくれるのではないかと思っています。咲いているときはとてもかわいく、きれいでした。

シーワールドホテルから入って真っすぐの前の小径です。今のツルはこうしていっぱいここに繁茂しています。私はここを見ました。素敵な紫色の花園に夏はなります。

周りはこういう状態です。

これもみんな今の花です。ずっとこの小径は紫色の花の咲くツルで松林ができています。結構、広い距離ですね。

これはシーワールドホテルです。

びっくりしました。2004年3月7日、カラスノエンドウがもう咲いています。

ロイヤルホテルの前です。

きのう、片づけてもらったばかりのシーワールドの前の渚ですが、もうすでにこうして石がいっぱいまた出てきています。工事の後ですので、仕方がないのでしょうか。やはり毎日手入れが必要ということでしょうか。

きょうも少し手入れをして、枯れ枝に火をつけました。どんどんきれいになっていきます。継続は力だなと思います。

いかがでしたでしょうか、今朝撮りました。私の感じばかりで申しわけありませんでしたが、これで私の紹介を終わります。失礼しました。(拍手)

○清野アトハイザ - どうもありがとうございました。

そうしましたら、次に2番目の御発表をお願いしたいと思います。

漁協婦人部から橋本みつ子さんに来ていただきました。

前の方にいらっしゃっていただけますでしょうか。

それでは、よろしく申し上げます。

○橋本 私は漁協婦人部の橋本と申します。よろしく申し上げます。

私の家は前原で、夫と弟と小型船、5トン未満を経営しております。船は加茂川の中に入れておりますが、昭和50年ごろから川が浅くなり、船の出入りが困難となり、何度か掘ってはもらいましたが、すぐ埋まってしまいます。そこで川の中を利用する数十人で河口港の中に上架場を新たに掘ってくれるよう運動しましたが、漁協の基準として狭くなるので掘れないとのことであきらめていたところ、マリーナコート、新しい港ができることになり、喜んでおりました。

港は私ども漁業者にとっては住みよい、大切な船を保管するもので、今は河口港に居候をして、台風時にはほかの人の引き場をやりくりしながら借りております。夜の台風時には場所も離れているし、心配で眠れません。マリーナ港は大分できていますが、まだ漁港に波が入り、安心して置くことができません。早く安心して置けるように完成してもらいたいと思います。

最近の台風は風が非常に強いものが多く、少しでも早く安心できるよう、港の完成を仲間とともに待ち望んでおります。関係官署の皆様、御協力をよろしくお願いいたします。

簡単ですけれども、終わらせていただきます。

うちの方はスライドはありませんけれども、よろしくお願いいたします。

○清野アドバイザー - 後ろに漁港のスライドがありますので、もしあれでしたら、具体的にどの場所とかいうのがありましたら。

[Power Point]

○橋本 組合長さん、どの辺になりますかね。

○清野アドバイザー - 普段船をつないでおられるところは。

○橋本 普段は、ここが加茂川ですから、こっちになるのですかね。この辺かな……。済みません、ちょっと。

○宇多審議役 急に空中写真を見せられてもわからない。

○山本 前回もおしゃべりしたのもうよく知っていると思いますけれども、今のことで説明させていただきますけれども、橋本さんは、ここが今避難港みたいになっているわけです。このたまりが、今ここに置いているので、ここへ船を引き揚げたいのだけれども、それは不可能である。ここに波が入り過ぎるということで、今これを出すのだということでやっているのだけれども、私の聞いている範囲では、この防波堤を出すとこっちの方の人に御迷惑がかかるとか、そんなことを伺っておりましたけれども、ここを今、工事中でございませぬ。これができれば自宅はこちらの方でございませぬので、すぐ近いと、こういうことでございませぬ。それがこちらだと、橋を渡ってこちらまで行かなければならぬ。波が出ると考えられないような波が来ますから、ここに置けないからこちらへ来るわけです。ここにいますけれども、この船もこっちに何杯か来るわけです、入れるだけね。全部入れないです、これは。だけれども、船が込んでいれば船と船が鉢合わせしますから、壊れますから、要するに壊れないために間抜きをして、船がこちらへかかるわけですね。それでこちらの船が少なくなると、船と船が鉢合わせしないから安全であると、こういうことで今やっていますけれども、1年のうち10回ぐらいあるのかな、台風が来るとこっちへ逃げるのですよ。橋本さんの船は、今説明したとおり、普段はこっちのこの引き場を借りているわけですね。ここにはみんな船が引いてあるわけです。これをやりくりして、ここを借りて船を引く、こういう状況なのですね。本当はこれができればここへ行きたいのだけれども、ここが完全ではないためにここに船を置けない、こういう状況でございませぬ。

○宇多審議役 左下は全然使えないのですか。

○山本 これですか、使えません。

○宇多審議役 使えないわけですか。

○山本 小さい船が引いてありますけれども、船を引きようにも、現在では引けません。

○宇多審議役 使えないわけですか。

○山本 はい。だから、ここへ出している。ただ、ここへ出したら何か文句を言われたとかと、前組合長にそういうふう聞いております。

それだけでございます。わかりましたか。

○清野アドバイザ - はい、ありがとうございます。

○山本 補足説明ですからね。

○清野アドバイザ - そうしたら、漁港について、漁協婦人部ということで、そういった婦人部の活動とかで多分いろいろなことをほかにもなさっていると思うのですが、普及活動とか何か。

○橋本 今は荒川の方へ出店ではないのですが、毎年4月になると行くのですが、それと各学校から漁業体験をしたいということで、いろいろと学校の方から連絡がありまして、多いときで210人ぐらいの生徒さんが見えまして、それで漁業の体験をしたりしてやっております。

○宇多審議役 船に乗せたりするのですか。

○橋本 ええ、船にも子供さんを乗せて、港の周りをグルッと回って、喜んで帰ってくれます。

○清野アドバイザ - 学校というところの範囲の、鴨川市内の学校ですか。

○橋本 いえいえ、東京の東部の方からいらっしゃったり、荒川からいらっしゃったり、それから船橋の方からもいらっしゃいます。

○宇多審議役 荒川というのは東京都荒川区ですか。

○橋本 はい、そうです。

○清水 荒川と鴨川は姉妹都市なのです。

○清野アドバイザ - その姉妹都市の関係で荒川の子供さんたちが来たり、こちらの漁協の人が向こうに訪ねていったりというような交流があるわけですか。

○橋本 そうですね。

○清野アドバイザ - では、会場からの質問はまたまとめてさせていただきたいと思っております。

で、どうもありがとうございました。

○橋本 ありがとうございました。(拍手)

○清野アドバイザ - そうしたら、休憩をちょっととりたいと思います。10分弱で、また11時20分から始めたいと思いますので、よろしくお願いします。

きょうはちょっと暑くなってきましたので、外に飲み物がありますので、適当に御自分で取っていただけたらと思っています。

それでは、20分になりましたら、3番目の方の御発表を伺って、その後、皆さんとの意見交換をしたいと思っています。

ありがとうございます。

[暫時休憩]

○清野アドバイザ - そうしたら、次はサーフィンについてで、サーフライダーファウンデーションの方から説明していただきたいと思います。

資料はスクリーンとかパネルとかがありますので、見えにくかったら前の方にいらしてください。

では、よろしくお願いします。

○上田 サーフライダーファウンデーションという団体の上田といいます。きょうはこういう場を準備していただき、ありがとうございます。

私たちがどういうことをやっているかというのは、こういうふうな資料を用意しているので、後でテーブルに置いておきますので、それを見ていただければわかると思うのですが、サーフィンをするという人間の立場というか、グループから、海岸というのを自然のまま残そうということ在全国的にいろいろ調べたりして、意見を提案したりしているようなことをやっています。

それで、きょうは、私はもともと鴨川で生まれたわけではないので、ここの鴨川のサーフィンの歴史とかというのは私以外の先輩方の方がよく御存じですので、この場所でどうやってサーフィンがずっと始まっていったかという話を少し紹介したいのですが、逆にほかの土地から来た人間として、私は関西の京都から来たのですが、そういうところでは、私はだから若いときというのはサーフィンなどは全然するチャンスがなかったので、ラグビーばかりやっていたのですが、京都というところはものすごくそういうラグビーというものが盛んで、小さいころからやる人たちがそれなりにいて、ものすごく全国的なレベルが高いのです。そういうふうなスポーツをする人たちがいる文化とい

うのがあるところというのは、そういう1つの種目がものすごく強くなるとか、そういうふうなものがあると思うのですけれども、ここの鴨川というのはつくづくサーフィンをする場所というものがものすごく適しているが故に、日本全国の中でのものすごく貴重なサーフィンの文化というか、そういうものがしっかりと育っていて、これからもこの場所から世界に羽ばたくような選手というのはどんどん出てくると思うのです。だから、そういう意味で、場所を守るというのはものすごく大切なことだし、やっていきたいというふうに思っています。

それでは、写真をいろいろと用意したので、それときょうは具体的に、鴨川のサーファーの先輩の小川昌男さんにも来ていただいているので、一緒に写真の説明とかには協力していただこうと思っています。

[Power Point]

ここが古い状況なのですけれども、いろいろ古いサーファーの先輩に聞くと、南うねりというのが入ってきたらここの場所できれいに波が崩れる、それをこれを使って図で準備しました。この写真がこういうふうにかろうじて南うねりの状態のうねりが残っているのでもうまく使えたのですけれども、入ってきたうねりがずっと回り込んで、崩れる場所というのはこのあたりです。

[Power Point]

もう少し具体的なものが次にあるので、いろいろ先輩に聞いた話がこういうことなのですけれども、これはどうですか、間違いとか、サーファーが呼んでいた……。

○小川 これはかなり昔の写真なのですけれども、南からうねりが入ってきまして、よく大きい波のときはこの辺で割れまして、波のサイズによって岸の方で割れてくるのですけれども、この一番瀬、二番瀬、三番瀬という呼び方は私たちサーファーの間では言っていないませんでした。ただ、説明的には合っていると思います。

このころはもうすごく鴨川も本当に日本中で一番いい波だと言われていた時代で、今はもう影も形もなくなったのですけれども、もちろん皆さん御存じですよ、この時代のこととは。

○宇多審議役 何で「赤堤」と言うのですか。

○小川 「赤堤」というのは、ここに赤い灯台が建っていたのです。御存じですか、川の、海に向かって右側の防波堤なのですけれども、そこに赤い灯台が建っていたので「赤堤」と呼んで、私などはここの辺を、今の人たちはここを「中堤」とか呼んでいたみたいなの

ですけれども、この中間どころのことを「中堤」だとか、私たちサーファーの呼び方ですね。それがなぜか、鴨川というところは本当に日本では一番有名なサーフィンのポイントなのです。そのためにこの「赤堤」という言葉だけがひとり歩きして、よその知らない土地の人までもがこのポイントのことを「赤堤」、「赤堤」と呼ぶようになってしまっています。

○宇多審議役 堤防が赤いというわけではなくて。

○小川 堤防が赤いのではなくて、赤い灯台が建っていました。この灯台ですね。

○上田 だから、これは川の左側の堤防の先を歩いてこれから海に入るというものです。

○宇多審議役 歩いているのはどなたですか。

○小川 ちょっとわからないですけども。

○清水 右側が加茂川ですね。

○小川 ここが加茂川です。この奥が鴨川の第一漁港ですか、昔の漁港で。これは川の左側、海に向かって左側の短めの堤防のあったところで、ここから海岸、砂浜につながっていた状態です。

[Power Point]

○上田 これは内側というか、漁港側の……。

○小川 そうですね。これは今、赤い灯台の建っていた防波堤だと思うので、その向こう側に見えるものですね。

○上田 だから、これがまたちょっと違った角度の、ここから入るのですね。

○小川 この防波堤の2つの間が加茂川で、ここから入って、この日は小さい波ですけども、実際にはもっとこの赤い灯台よりもはるか沖から崩れていました。

○上田 これぐらいのサイズというか、この波はどのあたりで……。

○小川 これはそれほど大きなサイズではないのですけれども、赤い灯台の少し手前ぐらいの波のサイズだと思います。

○宇多審議役 首、肩ぐらい、もっと大きいですか。

○小川 波のサイズですか。

○宇多審議役 ええ。

○小川 恐らく背の高さぐらいはあると思います。ちょっとしゃがんでいるので、人間の背の高さはここから立って、このぐらいあると思うのです。それぐらいの大きさだと思います。

○宇多審議役 「ショルダーの張ったいい波」ということですが、「ショルダー」というの

は何ですか。

○小川 「ショルダー」というのは英語で「肩」という意味ですね。波の肩という、この部分なのですけれども、サーフィンというのは崩れた波の中を走るものではなくて、波のつくる斜面だけ、崩れていない部分を滑るのが、余りサーフィンのことを言ってもしょうがないですが……。

○上田 いいのではないですか。

○宇多審議役 いいです。

○小川 「ショルダー」というのは、崩れていないこの面が切り立っていて長ければ長いほどサーフィンには適している波で、まさに加茂川の河口の波というのは、日本で一番いい波だったと思います。もう今現在ないですけれども。

○上田 だから、サーフィンをしなない人から海岸とか海を見ると、どこでもできるのではないかと思われるのですけれども、そうではないのですね。

○宇多審議役 その写真、1982年2月というのを覚えておいてもらって、実はこのときに前原がものすごい侵食を受けた写真が午後の部で出てきます。

○上田 そうですね。これは雑誌からなので、この写真はその数年前か、その前のものですね。雑誌がそのときに発売されたということしか残っていないので。

○宇多審議役 そうか。

○上田 それと、大きな波というのがというのが、今の鴨川だったら大きなセールが入ってくるとキャパシティというか、流れができて、余り大きな波にうまく乗れないという話を聞くのですけれども、そのあたりはどうなのですか。立たないというか、クローズになるというか。

○小川 そうですね。海の沖合に、今テトラポッドと言われる離岸堤というのですか、それが幾つも海を分断してしまっているのです、この大きな波というのは沖から崩れますので、そこから加茂川の湾が例えばこうやってあったとすると、加茂川の河口の波が横に崩れていくものなのです。今の、だからここで乗ったらば、ずっと、例えばユニバースホテルがあるもう少し先ぐらいまで乗れたような時代もあったので。

○清野アトバザ - どの辺ですか。

○小川 ここから割れて、サーフィンというのは白い波の中を真っすぐ滑るものではなくて、横にこうやって崩れていく、それに沿って乗るものなので、結局そこで割合距離が乗れるものなのです。崩れているところと崩れていないところの間を滑るものなのでね。そ

れがこういうねりが入ると、ここで例えば乗ったものがずっと斜めに走って行って、だから沖から崩れて、しかも横にきれいに崩れていくのが、まさにこの鴨川の地形というのが、弁天島はここですかね、ここからこうやって浅いところで、深いところは波が早く進みますので、どうしても波がこうやって曲がっていくのです、この図のように。それに沿って乗った場所からずっと長く乗れる、これは世界の中でもかなりいいポイントだったと思います。本当に日本では間違いなく一番いいポイント。

○清野アトバザ - そうしたら、それに当たるのかもしれませんが、写真がまだありますので、ちょっとそれをもとに。

[Power Point]

○小川 そうですね。ここのこの部分をサーフィンというのは乗るのです。ここが崩れればまたその先に行ってという、同じ格好をしていますよね。この崩れているところと崩れていないところをこうやって走るのが……、サーフィンのことを説明しても……。

○上田 いいのですよ。サーフィンのことを説明するのがこの時間ですから。

○小川 そうなのですか。

○上田 この日はというか……。

○小川 この日はまあ大きな方ですね。ただ、これは岸の砂がかなりなくなっている時期ですね。テトラポッドが鴨川の前原海岸に一度海に……。

○上田 海ではないですね。これは海岸に入ったときの写真ですね。

○小川 ええ、それが写っていますね。このときは砂浜が一番削られていた時代だと思います。実際にはこの赤い灯台がここに見えるのがわかりますか。ここの沖で乗った波をずっと横に乗ってくるので、ここまで乗ってこられるのです、こういうところとかも、1つの波に。決して真っすぐ乗るわけではなくて、真っすぐ乗って防波堤の付け根に向かって滑るものではなくて、ここから斜めに乗ってきて……。

○上田 そうですね。1つ、サーフィンの歴史をずっと調べて行って、60年代から70年代にかけてはこの海岸自体はそんなに変化というか、サーフィン自体はそんなに変化はなかったようなのです。このころ、80年代に入って局所的な侵食が激しくなって災害を受けるとというのが後であると思うのですけれども、このときに沖合にこの影が見えますね。だから、一番外に堤防ができ始めたのが80年代に入ってからみたいなのです。それは空中写真を見たらわかるのですけれども、だから、逆に沖合のこういう構造物と手前の海岸というのがどういう関係で侵食とかがあったのかというのもいろいろ専門家の方にはしっ

かりとりサーチはしていただきたいというか、一番心配しているのが、これと同じことが今の海岸でこれから起ころうとしたら、シーワールドの前とか、そういうところが本当にどうなるのかというのが鴨川の人たちが一番心配していることだと思うのですが……。

〔 Power Point 〕

これは足名さんですね。だから、波の大きなときはこうやって河口から出ていった。

○宇多審議役 上流方向を向いているのですか。

○小川 これは上流を向いています。これは加茂川の河口です。短い前原側の堤防、防波堤の沖に向かった途中から、川の中から入っていつているのですね。

○上田 こっちの手前がどンドン、どンドン波が大きくて、ここから飛び込んだら波に巻かれてしまうので、川から出ていったという……。

〔 Power Point 〕

これは逆に堤防の先の方から陸側を見た、このときはサーフィンの大会をやっていた日なのですから……。

〔 Power Point 〕

これはさっきありましたね。

〔 Power Point 〕

○清水 どこから撮ったのでしょうか。

○上田 これは、写真の場所としては新しいノンキーさんの2階というか、上からですね。

○清水 雪が……。

○上田 ええ、雪が積もっていて……。

○宇多審議役 鴨川にも雪が降るのですか。手前のモニュメントは何ですか、銅像みたいなもの。

○小川 椰子の木を冬なのでカバーしているのです。暖かくなるとこの布を取ります。

○上田 80年代に入って、こうやって海岸がどンドン整備されていったみたいですね。さっきの写真はこのノンキーさんの上のところから撮った写真のようです。このときの時代というのが今ははっきりと特定できていないのですけれども、これだけ砂のあったときもあったのですけれども、これが一挙になくなって災害になったということも、この後、発生するのですね。

〔 Power Point 〕

こんなに賑わっていたのですか、鴨川の。

○小川　そうですね。夏はすごかったですね。

○上田　今、海水浴客というのが全国的に減少傾向にあるのは確かで、だから、必ずしも海岸の変化と海水浴客の相関関係ということは言えないと思うのですけれども、海岸というか、海岸沿いの観光ということで、どんどん人の使い方が変わる中で、サーフィン利用とかというのが、今、年間を通じてものすごく経済的な地域のメリットになっているというのは全世界的な傾向にはなっています。

[Power Point]

こういうふうになったということですね。

大体こんな感じですけども、何か。

○清野アドバザ - 「KAMOGAWA STORY」というふうにあるのは、本か雑誌か何かですか。

○上田　治さん、この背景をちょっと教えてください。

○大久保　それはうちのお客さんで、サーフィンを好きな子が写真をまとめてくれたものです。趣味でつくった鴨川の物語というか、そんな感じです。

○上田　だから、こういう写真はなかなか古いものはなくて、80年代ぐらいからこうやって記録が残っていたりして、あと60年代に小川さんの話では、このあたりに一番最初の大会などの写真があるのですけれども、この前の時代というのも、前原の海岸には掘っ立て小屋みたいなものを建てて、そこにサーフボードを置いて、だから、今のハワイのワイキキとか、そういうような情景と同じように、ものすごく自然にサーフィンというのが溶け込んでいたというか、それはまさにこの場所と、新しいいろいろな流行とか文化とかをうまく取り入れて、その地域に根ざしたものがずっと育っていくというものの典型だと思うのですね。

○清野アドバザ - どうもありがとうございました。(拍手)

4. 意見交換

○清野アドバザ - そうしたら、残り時間は余りないのですが、きょう発表していただいたお三人の方に前に出ていただいて、ミニパネルディスカッションみたいにしたいと思います。会場の方からも御質問をされたいことがあるかと思しますので、ぜひ挙手をしていただいて、どんどん質問してください。

では、前にいらしてください。

それでは、どの方のお話についてでも結構ですので、どうぞ、いかがでしょう。

そうしたら、一番目の相原さんのお話からにしましょうか。相原さんの植物のお話について御質問など、あるいは補足意見などありましたら。

○相原（聡） 私は基本的には自分がウォーキングをしているのですね。そして、体の健康のために歩いていたら海が汚かったり、また眺める景色の中に花がきれいだなと思ったりしているわけです。ですから、自然の花は本当にお金がかからなくて自然に繁殖していくのですね。だから、これが尾瀬のようにニッコウキスゲだって、保護すればああやって有名なところになってみんなが訪ねるようになると思うのですが、ダイコンノハナやハマヒルガオでももっと、もっと、もっと育てるような方向に持ってってもらいたいと思うのですが、刈り取る時期とか、そういうことが連携プレーできなければ育たないのだなというふうにつくづく、毎年絶えていってしまったり、茂り過ぎていったり、そういうことで悩みを持っているのですが、何か御質問があったらよろしくお願いします。

○宇多審議役 宇多ですけれども、待崎川の河口の左岸側の、さっきのあのツタがガンガン広がってしまったというところについて質問なのですが、通常、ああいうころの植生帯はきれいにすみ分けていて、つまりここはハマヒルガオ、ここは何とかいう草、それはもう大体安定しているというふうな感じになっているところが多いのですが、あそこは何かというのかな、名前が、あれが……。

○相原（聡） ツルのね。

○宇多審議役 最近急激に広がってきたのか……。

○相原（聡） これは早く切り取ればそんなに災いしないのですよ。

○宇多審議役 だけれども、相原さんが散歩をする前から鴨川の海にはあったので。

○相原（聡） あったとおっしゃいますね。

○宇多審議役 そうすると、あって、そのところに群落しているのか、最近広がってしまったのかね。

○相原（聡） よくわからないのですけれども、松林の中にあると、松林の中は整備するのです。

○宇多審議役 刈り取る。

○相原（聡） 確実に南部林業が刈り取るのです。だから、大きくなるらないのです。ところが、刈り取らなくなったからああなってしまったのです。

○宇多審議役 放任してしまったからバーツとなってしまったということですか。

○相原（聡） そういうことです。私はそういう考え方です。あくまでも小さいうちに、ススキでも何でも小さいうちに刈り取ってくれば、余り勢いがつかないのですね。ですけれども、放置してどんどん、どんどんやらなくなったから、その枝がもっと伸びてしまったと、こういう状況にあると思います。

○清野アドバイザ - あと、土壌化というか、徐々に土っぽくなってくると海岸に生える植物の種類構成が変わったりするのですけれども、そういうことというのはありますか。粒の嵐とか、砂の飛び方によっても変わってくるのですけれども。

○相原（聡） あります。汐入公園というのは基本的には砂だったのですね。ですけれども、手前の方は大分土化してきていますけれども、それでもやはり砂ですね。ですから、ハマボウフウが最近とてもふえてきたのです。私たちもハマボウフウはふえてほしいと思っていますから……。

〔 Power Point 〕

これですね、種がいっぱいになりますから、いっぱいまいたり散らしたりしてふえるように努力しています。これは本当はあそこは「保護しています」と書いてあるのですが、葉っぱのところ、これをつみ取って、根っこのところなどを酢みそにすると本当においしいのです。

○宇多審議役 食べられるのですね。

○相原（聡） 食べられるのです。葉の方は刺身のつまなどに、東京のつま屋さんなどで買うと結構高かったりするので、取りたい人は取るということと本当にこれがふえなくて困るのですが、ハマボウフウ自体は根っこがすごく長いものですから、葉っぱを取るぐらいでは余り絶えるものではないのですね。本当にこれはかわいらしく、フワフワ、フワフワと緑色の素敵な花が咲きます。今はこれがとてもふえてきましたのですけれども、それをこの木が邪魔するようになってしまって、これは根が強いですからもつのですけれども、ツキミソウとかダイコンノハナとかは、この葉っぱの方が強いのではないかと。それと、カラスノエンドウはとてもかわいい花が長いこと咲くのですけれども、それがやはり駆逐されると思います。

○清野アドバイザ - どうぞ。

○足名 前原に住んでいる足名ですけれども、海岸の堤防より砂浜側で植物が群生しているところというのは限られていると思うのですけれども、具体的に教えてもらっていいで

しょうか、知っているのですけれども。

○清野アトバ イザ - ここに地図があるので、もしよろしかったら。

○足名 大きい地図の方が。

○清野アトバ イザ - 大きい地図の方がいいですか。そうしたらパワーポイントで。

[Power Point]

○相原（聡） 私が歩いているのはもっとこっちなのですね。歩いているのは、未来高から亀田病院までですから、余りこちらの方の自生しているものはわかりませんが、話によると、ダイコンノハナは結構咲いているそうです。土化してくるとセイタカアワダチソウなどがまた出たりするのですけれども、今のところ、これは加茂川橋ですか、これが未来高ですから、未来高からこちらを私は歩いているのですね。これが多分汐入公園だと思います。この汐入公園は駐車場が……、これはグランドホテルですね。駐車場が確実に、この辺が土木ですか。そうすると、駐車場のところは植物は生えていません。ここにかつて駐車場らしきものをつくったところにも余り生えていませんで、先ほど説明したバラなどはここにあります。ノバラと木が茂り始めてしまって、カラスノエンドウがかわいそうになってきている状態です。汐入公園というのはこの辺です。このところに草がこの辺まで生えていまして、ここら辺までは確実に渚から本当に緑が出始めたここまではハマボウフウが今いっぱい生えています。ここの土化したところ、ここにダイコンノハナやらカラスノエンドウや何かうんと咲いています。

そして望洋荘が壊されまして、ここら辺にユリが群生していました。そして、紫色の花は、ここがシーワールドですから、シーワールドの間の小径に、ここにいっぱい群生しています。そういう状態です。

○足名 ありがとうございます。それで、私も歩いているのですが、汐入公園から土木の下の方ですね。その辺に海に向かって手すりがあったと思うのです、茶色い太い。

○相原（聡） ええ。

○足名 あれが随分砂で埋まっているのですね。

○相原（聡） あります、あります、ここですね。

○足名 砂がすごくたまって、そういう植物も繁殖しやすくなってきたのではないかと私は思うのですけれども、その砂がたまって全然動かなくなっている、そういう状況が言えるのではないか。

○相原（聡） ここに低い鉄柵の、ここにあったのと同じようなものができていたのです

ね。埋まりました、ここはね。ここはふえました、確かに。私が3年前に歩き始めたとき、冬になると鴨川海岸はハマグリを採取されるのですね。ハマグリがここで結構拾えたのです。朝、歩いていて、30個拾ったとか何とかって、私などは大喜びしていた時期があるのですが、ここ2、3年全くありません。なぜかといったら釣り人がいなくなりましたし、ここから先に投げても届かないのだそうです、魚のいるところに。ここに深みができたのですって。そこへハマグリがおさまってしまうのだそうです。それでハマグリが流れつかないという話を聞きました。そこをサーファーの人たちは結構歩いて、遠浅になってしまって、このところ結構、歩いていくのですよ、違いますか。遠くまで歩くのですよね。それで、そこから先に深みができたという話を聞きました。釣り人はここからそこへ投げても届かないと聞きました。

○清野アドバザ - それはすごく重要なことですね。

○宇多審議役 ちょっといいですか。今の質問、すごく大事な点を言っているので短く説明すると、植物が生えるにはある限界の砂浜の幅が必要で、ここは海岸線が凹んでいるから植物が生育できる。だから、こっちのように浜辺が狭いところは植物の生育は絶対に無理です、波をかぶってしまいますから。それで、さっきのお話はちゃんと調べてみる価値があって、ここをこっち向きに砂がずっと動いてきたのですが、そのときに浜辺のところに打ち上がった細かい砂が冬場を中心に陸の方へ吹き上げられるのです、飛砂で。そうすると、さっきの相原さんの話ではないけれども、このところの同じ砂浜なのだけれども、地盤面が少し高くなって、水切りというか、潮切りというか、それがよくなったのでほかの植物が入ったという可能性があるので、証拠は今持っていませんが、ちょっとそこは、今の両者の話を総合すると調べてみた方がいいかもしれないということだと思います。

○清野アドバザ - そうですね。海浜植物というのは、鴨川では余り大事にされていないみたいなのですが、千葉県全体では本当に絶滅しそうというか、昔たくさんあったのになくなってしまったということで、群落として守ろうというような方針があるのですね。だから、今回のお話で、具体的にどこにどういうものがふえたとか、あとさっきのハマゴウだと思うのですが、それも砂をとめるにはいい役割を果たしていたりすることもあるのです、とにかくバランスの問題だとか種類のこととかを伺うと、情報としてはすごく豊かだと思います。

それと、ユリも昔、一面に咲いていたのですかね。

○相原（聡） はい、咲いていました。これです。

○清野アトバ イザ - 礼文島などは海岸のユリを見に行くツアーとか、そのためにわざわざ人が集まるぐらいなので、海岸線のユリというのはすごく大事なのですが、それもやはりなくなってしまうというのはすごく残念なので……。

○相原（聡） そうです。刈り取る時期でね。これの種ができるまで待っていてやれば、自然にすごく強いのです。

○清野アトバ イザ - きょうのお話を伺って思ったのは、そういった草刈りをするにしても、どの花の実がついて種が落ちた後とか、いろいろな植物の暦も考えながら管理していくということもあるのかなと思いました。

○相原（聡） そうですね。お願いできればと思います。

○清野アトバ イザ - どうもありがとうございました。

○相原（聡） ありがとうございました。

○清野アトバ イザ - それでは、次の2番目の漁業のお話について、御質問ありませんか……。

漁業についてはなかなか市内に住んでおられる方も、港でどんな魚が揚がっているのかとか、それをどういうふうにするか見学させてもらえるかとか、それからお魚屋さんに流れているのかとか、そんなことなどをもう少し知りたいなという方がおられるみたいなのですね。ぜひ漁港に水揚げされたもののお話もしていただけたらと思うのですか。

○橋本 漁協の見学の方は定置網もありますし、あぐり網もありますし、私どもは一本釣りなので、朝行って夕方帰ってくるような状態で、年間を通して私のところではサバ漁ですけれども、いつでも見学はできます。魚を揚げて、魚屋さんが入札をして、そして魚屋さんが荷造りをして買うわけですけれども。

○清野アトバ イザ - 一本釣りだと何を釣っておられるのですか。

○橋本 一本釣りでも、サバ、アジ、カジキ、メダイ、キンメ、いろいろあります。

○宇多審議役 港からどのぐらい遠くまで行って、本当の漁場を教えてしまうと人が釣りに行くからあれだけれども……。

○清野アトバ イザ - この写真の範囲か、それとも……。

○宇多審議役 相当沖ですか。

○橋本 うちの方は勝浦沖というところまで、約1時間ぐらいのところまで走ります。朝、3時半に出ますけれども、起きるのは2時半に起きるのです、支度して。(笑声) 3時半に出港して、帰りが2時ごろまでやっております。

○宇多審議役 午後2時ごろまでやって帰ってくる。

- 橋本 ええ、港へ入ってくるのが。あと帰ってくると、あしたの支度の釣り仕事、道具づくりですか、そういうものを作って、年間を通しております。
- 清野アトバイザ - お休みになるのは何時ぐらいになるのですか。ほとんど1日中、働いているような感じですが。
- 橋本 休むのは9時ぐらいになってしまうのです。
- 清野アトバイザ - それでも2時過ぎには起きておられるのですね。
- 橋本 そうです。2時半には起きないと間に合わないものでね、3時半にはもう出港しますから。
- 清野アトバイザ - 一本釣りは丁寧にお魚が捕れるから、キンメダイなども傷がつかないで立派なまま捕れるのではないですか。
- 橋本 ええ、揚がってくるのはそのままきれいです。
- 清野アトバイザ - キンメダイはやはり房総半島の周りが深いところがあるからだと思うのですけれども、すごく長い釣り糸を垂れているのではないですか。
- 橋本 沖の方はちょっと私もわからないですが、いろいろ釣り仕事をして、それで帰ってきてまた道具づくりをして、あしたの準備の方へとかかっておりますけれども。
- 清野アトバイザ - 鴨川だと、漁師さんで若い方が少しだけでもふえているというふうに伺ったのですが。
- 橋本 定置網の方は大分若い方がいっぱいふえておりますけれども、うちの方は後継者というのはなかなかいないので、やはり年齢的に60、70の方が多いです。
- 清野アトバイザ - 一本釣りは後継者の方が余りふえないのですか。
- 橋本 そうですね。余りいないです。
- 清野アトバイザ - ありがとうございます。
- 橋本 ありがとうございます。
- 宇多審議役 お昼、お弁当を持っていくわけですね。
- 橋本 そうです。
- 宇多審議役 そうすると、1日中、船に乗っているわけだ、魚を釣って。
- 橋本 はい。
- 宇多審議役 それで、帰ってくるのに1時間ぐらいかかるわけでしょう。
- 橋本 そうですね。
- 宇多審議役 例えば、きょうは天気が下り坂とか、要するに危ないといったときには、

サッと帰ってくるわけですか。途中で急に天気が悪くなったりする場合もときどきありますよね。はなから行かないという手もあるけれども、そうではなくて、普通、朝はすごくよかったのだけれども、急に危なくなっただけなどというときには……。

○橋本 もう早めに帰ってきます。

○宇多審議役 携帯電話か何かで、無線でやるのですか。

○橋本 無線がしじゅう入りますもので。

○宇多審議役 だって、行っている方は心配だから、そうすると、どういう漁の状態かというのは無線か何かで。

○橋本 そうです。うちにも無線が入りますけれども……。

○宇多審議役 うちにいてもわかるようになっているのですね。

○橋本 大体わかります、何時に入るかなというの。

○宇多審議役 じゃあ、何時ごろ港に戻ってくるというのも大体わかっていて、こっちの方で用意しておいて、漁があれば仲買人……、仲買人の人に売るのがかな。

○橋本 そうです。

○宇多審議役 そういうふうになっているわけですか。わかりました。

○橋本 ありがとうございます。

○清野アト'バ'イザ - 漁師さんの奥さんは本当に海の上でどうしているかなというのを心配しながら待っておられるというようなお話の一たんが伺えました。ありがとうございます。

どうぞ。

○上田 フィッシャリーナとかの使い方のことで、先ほど組合長の方から、今はだめなのだということがあったのですけれども、どうしてだめなのか。それはうねりが入ってくるからということなのですかけれども、どういう状態で船を揚げたりするのかとか……。

○宇多審議役 それは午後説明します。

○上田 それは午後ですか。

○清野アト'バ'イザ - フィッシャリーナの中の波の状態については午後御説明したいと思いますので、そのときも補足がありましたら、ぜひ橋本さんの方からもお願いします。

そのほかいかがですか……。

そうしたら、時間もだんだん迫ってきてしまいましたので、3題目のお話のサーフィンのことについての御意見とか御質問がありましたら、あるいは全体についてでも結構です。

あと補足などありましたら。

○上田 波が、昔の海岸整備がされていなかったというか、海に物が入っていなかったころの大きな波に対応できるというあたりをもう少し詳しく、みんなにだれか説明してもらえないですか。だから、大きな波までサーフィンできるというもの。

○清野アドバイザ - では、先に。

[Power Point]

○庄司 どうも済みません。私は鴨川で 40 年以上サーフィンをしています庄司と申します。

大体一番瀬というのはもう少し沖の方なのです。大体一番瀬はこれではなくて、この辺なのですよ。この辺が一番瀬というのです。この辺だと大体人間の背の3倍ぐらいの波がブレイクして崩れてくるところ。それで、大体この辺が2倍から1倍ぐらいですか。これが一番瀬ぐらいで、ここは三番瀬ぐらいなのです。ここが大体二番瀬ぐらいなのです。それで、大体一番大きいものになりますと、この辺から波の大きさを言うと10フィート、「テンフィート」というぐらい波がブレイクしてくる一番瀬あたりなのです。二番瀬あたりが大体5~6フィート、三番瀬ぐらいになると、2フィート、3フィートぐらいの波がブレイクしてくるのですけれどもね。この位置ですね。余りこちらに寄らないように、この位置からこう真っすぐに。この辺ですね、全部。

○清野アドバイザ - 「瀬」と言ったときに、砂とか砂利の高まりなのか、それとも地層の…。

○庄司 そうではなくて、この下は全部岩場です。リーフ帯というか、丘みたいになっている。

○清野アドバイザ - その岩の角なのですね。

○庄司 はい。だから、昔はこの辺で全部海女さんがサザエを取ったり何かしていたのですよ。全部岩礁があるのです、この辺に。

○清野アドバイザ - そうすると、房総の地質、地層の縞々がありますけれども、そういうのが海の中で切り立っていて、ある幅に高いところがあってということですかね。

○庄司 要するに、リーフポイント、岩場が点在しているのですけれども、水中だから余り波に洗われないから、だから結構残っているのですけれどもね。だから、ここは世界でも、日本ではナンバーワンのポイントだったのですけれども、それとさっき御説明、さっきここにテトラの写真が写っていたのがあったでしょう。あれは、要するにここの堤防がこれだけ出たことによって潮の流れが極端に変わってしまったものだから、ここの砂がど

んどん、どんどん削り取られていった。それで最初はあそこの護岸にテトラが置いてあるのですけれど、それでも間に合わなくなって、ここにテトラポッドを入れるようになってしまったのですけれどもね。まあ、そういうことです。

○清野アドバイザ - ありがとうございます。

地形だけではなくて、多分、地質的にも非常に特別の場所だったのかなというふうに思います。

それ以外にいかがでしょうか。

○山本 私は体の具合が悪いからもう帰ろうかと思ったけれども、今、40年間サーフィンをやっていたという方が出たので、私は80年間漁師をやっております。(笑声)それで現在に至っておりますけれども、今説明したこと、あれは川の淵は石がずっとあったわけです。ユニバースの下の方、今の防潮堤、消波ブロックのあるところ。あの黄色い線が引っ張ってあるところ、あれはズーッと石があったわけ、磯根ですよ。砂浜ではなくて、磯根があるから波が出るの。何も港口の沖の方から一番瀬って、出るのではないのですよ。そこに石があるから、石が浅いから、そこから波が出てくる。それがずっとつながっているわけです。

○相原(聡) 済みません、この辺にウゴノリがいっぱいありました。

○山本 そういうことです。やはり説明しなければいけないですか、前に出て行って。(笑声)

○相原(聡) ウゴノリがいっぱい、岩に生えて。

○山本 皆さん、わかりにくいから言いますけれども、私も憎まれ口はききたくないですよ、もう、あの世の一步手前ですから。これは、この辺が全部磯カラだったのですよ、大きな石があって、修築する前は。だから、ここへ来ると波が起きる。この辺から起きやすいですよ。ここへ来ると波が起きる。同じ日でここだけ波が起きるわけです。この距離が長いわけです、これに沿って。全部磯ツカラですよ。イセエビもアワビもここ、砂浜ではないわけです。だから、ここへ来ると波が出るわけです。だから、この距離が長いからサーフィンにはもってこいだった。

第一、これ、今つくってしまったものを何しようということなの、ぶっ壊すの。ぶっ壊すならぶっ壊してもいいけれども。だから、そこで言いたいのは、一次産業があって、レジャーがあって、観光があって、人命尊重があるでしょう。どれをとるかということですよ。まちづくりに一番大切なのはこの3つだと思うのだ。観光もレジャーも大変でしょう。

だけれども、漁民だって一次産業なのだから、これだって生かさなければいかん。陸の方は波が出れば、台風が来て飛んでしまっはしょうがないでしょう。これを考えなければいけない。だから、三者が考えて、譲り合うところは譲り合っやっていかなければしょうがないでしょう。

以上、私はそれだけです。午後は帰らせていただきますから。(拍手)

○清野アバザ - ありがとうございます。

ちょうど午前中の総括までしていただいて、本当に浜に関していろいろな、第一次産業の漁業だとか、それから観光、本当にそういった折り合いをつけて考えなければしょうがないのではないかということで、もう本当にそれがこの会の趣旨です。なかなか過去のことをどうして議論するのかというのはわかりにくいかもしれませんが、皆さんがやはり見てきてくださった波だとか砂浜だとか、それから海底の様子というのはすごく今後の予測のために参考になる資料です。私たちが持っているのは空中写真とか測量の一部のところしかないので、全体のお話をきょう伺えたのは大変参考になりました。ですから、考えたことをポロッと行っていただくと、専門の人はもしかするとこれかなとピピッと来ることも多いので、ぜひそれをきちんとまた図にしたりとか、場所を特定したりという作業をしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

最後になりましたが、資料で3というもので1枚おつけしてありますけれども、鴨川の海水浴とか避暑というのはいつぐらいから始まったのだろうと思ひまして、「鴨川市史」という市の歴史の本を読ませていただきました。そういたしましたら、大正時代に本当に町を挙げて海水浴のお客さんを誘致したり、大事にされたということで、今で言う顧客満足度のチェックとか、本当に一生懸命やっておられた様子がわかります。

こういった鴨川が海を中心に発展してきたということを共通の理解としながら、午後には、海岸のもう少し詳しいことをお話をしたいと思っております。

きょうは皆様、本当にお忙しい中、お三方、そして会場の方、御出席いただいて、御討論いただいて、どうもありがとうございました。

それでは、お昼休みにしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

5. 休 会